

-立ち止まれない時代に- 「企業成長のエンジン:DX」を動かす!

# 要点だけ! DX推進の壁を知る

# チェックリスト

今こそ  
知りたいDX /  
vol.24  
(Ver2.0)

DXの道筋が見える! チェックリストから最適解を探り当てましょう。



目まぐるしく変化する社会、予測困難な市場。日々の経営やお仕事の中で、その環境や雰囲気を肌で感じいらっしゃるのではないでしょか?  
『当社もそろそろDXに取り組むべきなのかな…』そう感じつつも、何から始めれば良いのか?本当に効果があるのか?人材不足だし…  
様々な疑問や不安をお持ちかもしれません。今回はそんな皆様が抱えるDX推進のリアルな壁に焦点を当て、共にその解決の糸口を探っていきます。

セルフチェック項目をカテゴリごとに準備しました。チャレンジしていただき、「見えてきた課題」は、ぜひ当社にご相談ください。必ず力になります!

## DX課題探索チェックリスト/

### Q1 DXへの理解について

- DXという言葉は知っているものの、具体的な内容や、自社においてどのような取り組みが考えられるかについて、十分な理解に至っていないと感じている。
- DXは、主に大企業が取り組むものであり、自社のような中小企業には直接的な関係が薄い、または時期尚早であると感じている。
- 今後、DXに関する情報を積極的に収集し、理解を深めていきたいと考えている。

- DXとは、主にITツールを新たに導入することや単純なデジタル化を進めることとの違いを明確に理解していない。
- DXを推進することで、自社の業務や経営にどのような変化や効果がもたらされるのか、具体的なイメージを持つことが難しい。



### Q2 バックオフィス業務について

- 特定の従業員のみがプロセス・やり方を詳細に把握しており、その従業員が不在の場合、遂行に支障が生じる可能性がある業務が存在する。
- 業務処理において、時間を要する作業や、人的ミスが発生しやすい状況が多いと感じている。
- 業務に必要な書類やデータが紙媒体で管理されているものが多く、必要な情報を迅速に参照することが難しい場合がある。
- 会議資料や報告書の作成に多くの時間を要している。

- 業務の手順や流れが、必ずしも明確に定められていない、または定型化されていない部分が多いと感じている。
- 勤務管理や経費精算などのワークフローに煩雑さを感じることがある。
- 社内における情報共有が円滑に進んでいないと感じることがある。



### Q3 人材に関する状況について

- DXを推進するために必要な専門知識やスキルを有する人材が社内に不足していると感じている。
- 新しいシステムやツールを導入することに対して、従業員から懸念や抵抗が示される可能性がある。



- 現在の従業員に対して、新しいITツールの使い方や、DXに関する知識を習得させることは容易ではないと感じている。
- DXを推進する目的や意義が従業員に十分に浸透していない、もしくは理解・浸透させることは難しく、社内全体の協力体制を構築できないと感じている。

#### Q4 経営・事業戦略とDXの関係について

- DXを通じて、どのような具体的な目標を達成したいのか、明確に定義することは難しい。
- DXの重要性は認識しているものの、他の経営課題と比較して、優先順位付けに迷いがある。
- 新しい取り組みを開始するにあたり、社内での承認や手続きに時間要する。



#### Q5 ICTやテクノロジーの活用状況について

- 現在利用しているパソコンやシステムが老朽化しており、最新の技術を導入することが難しいと感じている。(現システムとの連携の可否とコスト)
- 会社内に存在するデータが様々な場所に分散しており、十分に活用できていない状況にあると感じている。(データ活用)
- クラウドサービスは知っているものの、自社にとって具体的なメリットや導入方法が明確になっていない。
- 従業員のITに関する基本的な知識や操作スキルに不安がある。ITリテラシーがどのレベルなのか調査・検討したことはない。
- AIやIoT、ビッグデータなどの新しい技術が、自社の業務にどのように役立つか、具体的なイメージを持つことが難しい。



- 日常業務が繁忙であり、DXについて検討するための時間的な余裕を確保することが難しい。
- DX推進に関する責任者または担当者が明確に定まっていない。

#### Q6 コストに関する懸念について

- 新しいシステムやソフトウェアの導入にかかる初期費用が高額になるのではないかと懸念している。
- 毎月の利用料金など、継続的なコスト負担が増加することに懸念がある。
- 人材不足や労務コストの影響で、ITに関する専門知識を有する人材を新たに雇用するのは難しい。



- IT投資に対する費用対効果に不安がある。
- DXに投資したとしても、その効果を事前に予測したり、導入後に定量的に効果測定したりすることが難しいのではないかと感じている。
- 外部の専門家やIT事業者に支援を依頼するための予算を確保することが難しいし、適切なパートナー、依頼先の情報がない。

#### Q7 DXに関する情報や知見について

- DXに関する情報を収集するための時間を十分に確保することが難しい。
- DXに関する情報が多岐にわたりすぎて、自社にとって有益な情報を選択することが難しいと感じている。
- DXに取り組む必要性は感じているものの、他の業務が繁忙であり、なかなか着手できていない状況にある。



- DXについて相談できる適切な専門家や支援機関を見つけることが難しい。
- 他の中小企業がどのようにDXを推進しているのか、具体的な事例を知る機会が少ない。
- DXを進めるうえでの、国や自治体の支援や補助金・助成金などの情報収集が難しい。

いかがでしょうか？「要因の見える化」にお役立ていただきましたでしょうか？

当たり前ですが、私たちも「できること」「できないこと」がございます。それでも、一緒に考えます！当社には、数多くのビジネスパートナーがいます。ICTベンダー、OA機器メーカー、文房具や消耗品、オフィスや空間創りまで。モノの提案だけではありません。ビジネスパートナーと一緒に「お客様の経営課題や業務課題」に寄り添います！

「できない！」を「できるかも？」そして、「チャレンジしてみよう！」に。  
最後は、「おおっ！できた！」に変えてみせます。

ぜひ、ご相談ください！  
御社の  
DX伴走パートナーで  
あり続けます。